

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371200058
法人名	有限会社 大矢野会
事業所名	グループホームおおやの
訪問調査日	平成 21 年 3 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4371200058
法人名	有限会社 大矢野会
事業所名	グループホームおおやの
所在地 (電話番号)	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8 (電話) 0964-56-1630
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成21年 3月25日

【情報提供票より】(平成21年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤15人, 非常勤4人, 常勤換算16.5人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建て	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	350 円	おやつ 昼食に含む 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.44 歳	最低 71 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮崎外科胃腸科医院、あまくさ歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周りにスーパーや市役所、住宅地等に囲まれた2ユニットからなるホーム。併設病院との連携により、健康管理や緊急時の医療体制があり、毎日の院長による訪問は、入居者・家族からの信頼が得られ、職員の安心にも繋がっている。看取りについては、詳細に明示された指針等を作成し、終末期に対し万全な体制が整えられていた。ホーム内は、職員が持ち寄った花々がそここに飾られ、また、元入居者の家族によって季節に応じた写真が提供され、季節感溢れた空間作りがなされていた。室内は、開放感溢れる高い天井や障子などを取り入れ、入居者に懐かしい環境造りが配慮され、床暖房も設置されている。職員の離職率が低く、協力体制やチームワークの良さが日々のケアの中にも窺えた。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果は運営推進会議で報告され、家族に郵送し、ホーム内にも掲示されている。外部評価で提案された各項目の課題について、職員全員で検討し、改善シートを活用して改善に向けた取り組みを期待したい。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、所属している委員会の項目ごとに担当して取り組み、各管理者が集約し施設長によって取りまとめられていた。各管理者や施設長がまとめることで、全職員の気づきや意向が反映されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市役所介護保険課・町内区長・民生員・家族代表・管理者・施設長等で構成され、2ヶ月に1度定期的に開催されている。会議ではホームの活動報告や入居者の生活状況を報告し、会議参加者の理解と協力を求めている。尚、地域情報を得る機会でもあるため、老人会や社会福祉協議会等をメンバーに加え、更なる地域との交流や協力が得られる事を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪れやすい雰囲気があり、家族参加の行事も多く取り入れる工夫があり、家族の訪問が多く見受けられる。毎月の新聞は、ホームの行事や入居者の様子が写真付きでわかりやすく報告され、ホームの様子が家族によく伝わっており、細かい要望や相談事等も職員に理解しやすい環境づくりがなされていた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2年に1度開催される商工会主催の「ほっと祭」は、太鼓やハイヤ踊りなどがあり、入居者の楽しみの1つとなっている。また、小学校の踊りや肩たたきのボランティア、中学生の職場体験や高校生によるインターンシップの受け入れ等、地域との積極的な交流が実施されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬う気持ちを忘れずに接します。安心して生活できる環境を提供します。よく見て、よく聴いて、よく話し合います。」と、3本の柱からなる理念の中には、地域住民ボランティアの活用や子供達とのふれあいを通じ、住み慣れた地域で安心した暮らしを支える事が謳われた内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所やリビング等の誰にでも目に付きやすい場所に掲げられ、理念を念頭におき日々のケアにあたっている。また、職員全体会議では、理念が実践され共有されているかを話し合う機会があり、具体的な事例を通じた研修を行うことで、実現に向けた努力が見られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の上八幡宮祭は、獅子舞や子供御輿の訪問があり、家族にも呼びかけ、入居者と共に楽しみを分かち合う支援がなされている。地域に向く機会作りとして、近隣の土地を借り、野菜等を栽培する事が検討されている。利用者の活躍の場として期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、所属している委員会で項目ごとに分割し、担当制で取り組み、各管理者が集約して施設長によって総まとめが行われていた。外部評価結果は、家族に郵送し、運営推進会議や家族会でも報告がなされ、1年に1度ホームを見直す良い機会として活用されている。「みどり」「さくら」いずれの棟の玄関にも外部評価結果報告書が掲示され、今後の取り組みに対し、活用していく姿勢がみられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市役所介護保険課・町内区長・民生員・家族代表・管理者・施設長等で構成され、2ヶ月に1度定期的に開催されている。ホームの現状報告や行事予定と共に市役所から介護保険に関連する説明がある等、出席者の質問や意見を聴くことで情報や意見交換の場となっている。また、民生員から婦人会の紹介もあり、多方面の地域との繋がりを模索している努力が窺えた。	○	元入居者家族や地域ボランティア、消防署・老人会・学校・社会福祉協議会等をの協力を得ることで、多くの意見や情報交換も可能となり、災害時の地域の協力体制も構築されると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近所に大矢野市役所があり、毎月発行するホーム便りを介護保険課窓口に持参する等、入居者の散歩コースの1つとなっている。市役所職員から入居者への言葉かけもあり、顔馴染みの関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「グループホームおおやの」新聞は、ホーム行事や職員の異動、入居者の暮らしぶりがカラー写真と共にコメントが付き、わかりやすく紹介されている。また、担当職員による手書きの文章と個別の写真で詳細な入居者の様子が報告され、家族の安心に繋がっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満は、家族会からホームへ意見が寄せられたり、直接職員へ伝えられる事が多く、その都度対応している。意見箱の設置や家族訪問時の声かけ等、意見を汲み取る努力が伺えた。	○	元入居者家族に現在の利用者家族の意見や悩みを聞いてもらう等を依頼することで、家族の思いや気持ちを知る事ができるのではないかと考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から4年目を迎え、これまで常勤職員の離職は2ユニットで3名と離職率が低く、職員の聴き取り面接でも産休の職員に対して他の職員が夜勤をカバーする等、働きやすい職場であるとの言葉が聞かれた。また、職員は地元から採用し、入居者との共通の話題を持ち、安心した馴染みの関係を築くための工夫が見られた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、交代で必ず誰かが参加できる支援があり、ミーティングで伝達講習を行い、職員全員の質の確保・向上に繋げている。内部研修は、事前に学習内容の要望を職員から聴取して実施。職員満足度の高い研修となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャー連絡協議会へ積極的に参加し、地域包括支援センターや他の事業所との情報交換や親睦に努めている。また、グループホーム連絡協議会は、相互の行き来は行われていないが、天草ブロックで初めての懇親会や新人研修に参加しており、更なる連携協働が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が入居前にホームの見学を行う事ができ、馴染みながらのサービス利用の支援がなされていた。併設病院のデイサービス利用後の入居が多く、入居後も以前利用していたデイサービスに出向き継続した関係を保つ配慮も見られ、馴染みやすい環境となっている。入居後は郷里が同じ職員との接点を見つけ出して話題作りを行う等、親しめる努力が行われていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理は「どげんして作りよったと？」と職員が声をかけ、アドバイスをもらう場面が見られ、調理法や昔の生活の知恵について教えてもらう等、入居者と職員が共に学んだり支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との会話を大切にし意向を把握している。また、意志疎通が困難な入居者は、表情を観察することで快や不快、喜怒哀楽を把握して声かけを工夫し、入居者本位の支援が実践されていた。理念の1つである「よく見て、よく聴いて、よく話し合います。」が実践に繋がっていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から入居者の生活歴や意向を聴取した事柄はフェイスシートに集約されていた。生活の中から課題をみつけ、生活リハビリを主体とした介護計画が立てられていた。家族の意見は来訪時に聞き取りを行い、入居者の希望は日常生活の会話から抽出し、介護計画に反映する努力が見られた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や心身の変化が見られた際は見直しが検討されている。3ヶ月毎に担当職員が中心となって全職員でモニタリングを行なっているが、介護計画の見直しまで至っていないようだ。	○	モニタリングやアセスメントに終止せず、介護計画への見直しを行う仕組みづくりの検討が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院デイサービスのイベント参加や、「さくら」棟と「みどり」棟が互いに自由に行き来することで、入居者の一人ひとりの思いに対応している。併設病院の常駐看護師による看護面の支援体制が整っており、家族の安心に繋がっている。ファミリーレストランに出向き好みのおやつを食したり、タクシーを利用した外出等、柔軟な対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、隣接病院が主となっており、院長が毎日ホームを訪れ、入居者一人ひとりに声をかけ様子を把握しており、家族に安心感を提供している。専門医への通院は家族に協力を依頼しているが、困難な場合は柔軟に職員が対応し、家族負担の軽減になっている。また、毎月眼科の訪問診療もあり、多様な医療面の支援が実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「看取りに関する考え方」でホームの方針を示し、「入居者が重度化した場合の指針」に沿った対応を説明し、具体的な支援体制の了承を得ている。「入院期間中の居住費・食費の取り扱いについて」では、具体的な費用が明確に表記され、「医療連携体制に係る同意書」「看取りに関する意思確認書」で同意が得られている。さらにターミナルに直面した際には、再び意思確認書を取り交わす等、状況に応じた対応がみられた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に面している居室にはレースのカーテンがあり、玄関付近のトイレにはドアとカーテンの両方が利用され、プライバシーへの配慮が見られた。記録は、リビングで入居者の見守りながら目立たないように行う配慮があった。記録の開示も想定し、個人名を書かない工夫もあり、難聴の方へのトイレ誘導等はジェスチャーを使用し、プライドを傷つけない対応もなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを尊重し、早起きの苦手な方は無理に起こさず、遅めの朝食を提供する等、個々のペースを大切にしたい過ごし方を支援する姿勢が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを手伝える入居者は少ないが、訪問当日はつわぶきがメニューにあり、「これは私達が筋をとったのよ。大変だったよ。」と嬉しそうに話をしてくれ、入居者の自信と生きがいに繋がる支援が見られた。職員は入居者と同じテーブルで食事を摂り、会話を楽しみ家庭的な団らん風景を見ることが出来た。また、入居者と共に調理できるホットケーキやお饅頭・やきだご作り等のおやつ作りを取り入れ、残存能力を活かした場の設定も作られていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日に関係なく午後の時間帯に自由な対応となっている。入浴チェックリストを見ながら2日に1度は必ず入浴するよう声かけの工夫があり、ゆず湯・菖蒲湯等、季節に応じた湯を提供して入浴を楽しむ工夫も取り入れられていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リビングの壁には入居者の習字が飾られ、熱心に書を嗜んだ成果が見られ、カラオケやビデオ鑑賞等、様々な楽しみごとの設備も設けられている。洗濯物たたみ等の家事やドライブ、花の栽培、昔の歌を職員に教える等、多様な場面が用意され、得意なことを見出し活躍できる場面作りが行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に添って、散歩やスーパーへの買い物・ドライブ等、数多く外出の機会を作る努力がみられた。夏場は、クーラーのきいた併設病院内を散歩する等、身体に負担がかからない工夫で、気分転換も図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず、自由な行動を提供している。帰宅願望が強い入居者へは家族と話し合い、一緒に寄り添って外出したり、自宅訪問を増やす支援を行い、安全面へ配慮が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練では、消防署の指導のもと入居者と共に火元を想定して、隣接病院との合同訓練と、ホーム独自の訓練が実施されている。訓練後は反省会を実施し、今後の対応を検討する努力が窺えた。隣接病院の院長宅が隣り、協力体制が整えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時・10時・3時・入浴後と、夜間にはペットボトルでの水分補給を促す等、1日を通じて水分の提供がなされているが、そのトータル量の把握までには至っていない。食事は隣接病院の管理栄養士のバランスを考えた献立をもとに、入居者の嚥下状態に合わせたきざみやミキサー食の対応がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「さくら」棟は、リビングの空間がテラスに面しており、日当たりが良く、テレビ前のソファは入居者の寛ぎの場として居心地の良さを大切に考えられていた。ソファには手作りの足のせがあり、足の負担軽減に配慮があった。また「みどり」棟は、椅子やソファが多く置かれ、のんびり過ごせる工夫がみられた。「さくら」棟、「みどり」棟いずれのホームも自由に行き来が出来、思い出の写真をリビングに飾って入居者との話題づくりの工夫もあり、落ち着く空間作りとなっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋は、家具や使い慣れた生活用品の持ち込みがあり、家族写真やお気に入りの小物等の持ち込みも多く、椅子やテレビ等が置かれ個性的で居心地のよい空間となっていた。入居者の症状によっては、持ち込みに制限のある居室も見受けられたが、安全に配慮しつつ快適な部屋作りが目指されていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおやの
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市大矢野町上1520-8
記入者名 (管理者)	松永 香 (岩本真理枝)
記入日	平成 21年 3月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念の一つである「安心して生活できる環境を提供します」という文言の環境をホーム内外、地域の中と大きな意味で位置づけている。</p>	○ 全員が再度確認し、理念の認識をし努力していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員の見える位置に理念を掲げ、実践できるように努力している。ホール・玄関・事務所等</p>	○ スタッフ中心のケアになってきている部分もあり、実践にかされるよう再確認していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>毎月ホーム便りを地域・家族に配布し、ホームの事を知っていただけるよう努めているが、理念について掲載していない。</p>	○ 今後、運営会議やボランティア等の機会あるごとに皆さんに紹介し、また、新年度等節目には、ホーム便り等で紹介し、皆さんに理解していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方や前の通りを歩いている方には、挨拶を心がけ、利用者や外出した際、知り合いと会った際等、挨拶や遊びに来てもらうよう声かけをしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭りや行事等に入居者と共に出来るだけ参加する様心がけ、また、婦人会等のボランティアや高校生のインターシップ、小学生、保育園児の訪問等を通じ交流につとめる。</p>	○ 利用者の状態をみながら、地域の行事への参加、外出の機会を増やし、様々な年代の方々との交流を心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者への支援のみで、地域への支援、かかわり等としては現在取り組めていないが、スタッフ・入居者の家族の地域、知人等相談、問い合わせについては対応している。	○	現在のグループホームの位置づけをスタッフ全員で再確認し、利用者の支援をもとにどのように地域とかかわり、役にたてるか考え取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフそれぞれで自己評価を実施することにより自分達が気付かなかった事、出来ていなかった事を再確認し、見直す機会になっており、ケアにつなげるようにしている。ミーティングにて意義について説明し理解をはかっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで実際取り組んでいる事等毎回報告し、外部評価後の運営会議では、評価結果を報告、それぞれの立場で意見を述べてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月ホーム便りを介護保険課の窓口を持参し、ホームでの取り組みや入居者の生活・様子等を知ってもらうよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特別学ぶ機会はないが、一方のユニットに現在成年後見制度を利用されている方が入居しておられ、入居時、職員に説明し対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学ぶ機会はないが、虐待に関しては絶対のないよう職員同士目を配っている。	○	講演会、研修等、機会があれば参加し、自分達がおこなっているケアに虐待につながるような行為がないか見直していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申込み、また、他事業所の学習会、研修会等機会があればスタッフへ声かけし、交代で必ず参加できるようにしている。また、全体ミーティングにて研修報告をしてもらっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、スタッフ同士の交流はあまりできていない。今年度は天草ブロックの新人研修や他施設での勉強会にもスタッフ参加。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回、連携先の病院と合同で忘年会等を行い、お互い親睦を深め、気分転換を図っている。また、ホーム独自でも食事会を行ったり、3連休等取得できる環境を整えている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日必ず顔を出し、入居者、スタッフへ声かけを行っている。職員の資格取得に向けた申し出があれば、対応出来る職員配置、勤務体制を整えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に必ず本人と面談し、心身の状態・状況を確認し、本人の意見・要望等よく聴くようにしている。また、信頼関係がつかれるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族と時間をかけよく話し合い、これまでの経緯やサービスの利用状況アセスメント等詳しく情報収集に努め、困難な事、不安な事を傾聴する。また、こちらのサービス利用状況を詳しく説明している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の相談をしっかりと受けとめ状況を確認し、受付を行ったうえで現段階で何ができ、どのようなサービスがあるのか説明し、他施設の申し込みやサービスの利用をすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、可能であれば本人にもホームを見学してもらい、入居者やスタッフとの共通部分を見つけ出し、顔なじみになれるようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの人生経験等話を聴いて、いろいろな場面で意見を求めたり、一緒に過ごしながらか本人のできる事を見つけ出し、それを維持できるよう支援している。歌や踊りを教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会や花見等に参加していただき家族とスタッフの交流を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、近況報告やホーム便りで、本人の日常の様子を伝え、面会時には居室で家族と一緒に過ごせるようプライバシーの確保にも努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、家族に外出・外泊をお願いしている。近くのスーパーにも買い物に誘っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が孤立しないよう全員が参加できる行事やレクリエーション等を考え、馴染みの関係づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ボランティア等の参加でかかわりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向に添えるよう努めている。困難な場合、スタッフ間で話し合い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常生活の中で把握できるようつとめ、随時、全スタッフが確認できるようにしてある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタルチェックを行い、心身の状態を把握し、日常生活の中で出来ることを見つけ出し、手作業やぬり絵等してもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ間でカンファレンスを行い介護計画を作成し、家族にも説明し意見を聴くようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは行っているが、状態変化に即したアセスメントや計画が作成できていない。	○	状態変化があった場合は、必ず再アセスメントを実施し、新たな計画を作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯とで文字色を分けて記録をし、スタッフ全員勤務時間開始前に申し送りを実施し、情報の共有に務めている。管理日誌、経過記録の他に申し送りノート、食事・内服チェック表を活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて支援の方法を考え、実践している。必要時には、家族にも協力をしてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のスーパーの利用は、日常的に出来ている。ボランティア(家族、婦人会、小学生、保育園など)は頻回にきていただいている。隣接しているデイケアの催しにも参加している。中・高生の職場体験もうけいれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスは、本人が希望される時に、翌週の月曜日にあわせてもらい実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域で支える意味での地域包括支援センターとの協働は出来ていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しているので、状態変化に応じて受診している。かかりつけ医と常に連絡を取り合い緊急時の対応がすぐできるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に相談しており、より専門性が必要な場合には、紹介してもらっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置していて、状態把握に努めている。協力医療機関とも連携しているので、いつでも相談ができる体制をとっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、情報提供を行い、様子を見に行くようにしている。また、家族とも情報交換しながら、スムーズに退院できるように対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時は、重度化に伴う意思確認書をもっている。状態・状況に応じ医師・家族・管理者等と話し合いの場をもうけ、最終確認をしスタッフに報告している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と相談し、今後どのようにして対応していくか協議している。また、状態に応じその都度検討し対応している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移動がある場合には、暮らしの継続性を配慮し、移られた先には情報提供書を渡し、本人及び家族への配慮を心掛けるようにしている。また、何度か訪問したりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	それぞれ、注意はしているがスタッフによって言葉遣いに違いがあり、利用者の呼び方なども統一されていない。	○ 利用者を人生の先輩として尊敬する事の徹底。また、言葉遣い、名前の呼び方等の統一。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったり、利用者の意志確認に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の自由に出来るよう、強制しないようしているが、意志決定力・意欲低下みられるため、ある程度の生活リズムにそって声かけをおこなっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2・3ヶ月おきに美容室よりカットにきてもらっている。また、本人の希望があれば対応は可能である。衣類は、基本的に本人の意向で決めておられ、見守りや支援が必要な時に手伝うようしている。自己決定がしにくい利用者は一緒に考えるようしている。また、時折一緒に買物にでかける。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みがあれば対応できるようにしている。時折一緒に買物に出かけ、刺身など自分の食べたい物を買ってこられる。つむき・いもの茎むき等簡単な作業は参加されるが、片付けは、ほとんど参加されない。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、家族会、お正月、花見等行事の時希望者のみ楽しまれる。飲み物、おやつ等は全員同じものをだしているが、希望があればコーヒー、ココア等対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自分で排泄ができない人には時間をみてオムツ交換を行っている。また、その他の方は、時間をみながら声かけ、トイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、1日おきの入浴になっているが希望があれば対応している。また、拒否があった場合は、無理強いせず時間をあけたり、他のスタッフによる声かけ等をおこないそれでも入浴されない場合、他の入居者に声かけをしている。菖蒲湯、ゆず湯の実施。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの生活通りに自分の生活リズムで過していただき、疲れたときは居室で休まれたり自由にされているが、夜間に影響の出ない程度にお昼寝をしていただいている。夜間寝付けない時には、添い寝したりして対応している。また、医師と相談しながら眠剤を調整している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の仕事とってお手伝いをされる方もおられるが、部屋で休まれている方もいる。日常生活の役割以外に色塗り、貼り絵等の制作、花の植え替え等なるべく全員が何かに参加できるように心掛けている。天気の良い日には、ドライブにでかけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の管理が出来られないため事務所に預かっているが、自分で財布をもって管理している方もおられる。お金を使いたい場合、すぐに使えるようになっているが使われる方は少ない。	○	使う機会が少ないので買物等の外出を増やしていきたい。時には、本人にいくらかのお金を渡して自分の好きな買い物を楽しんでいただく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によって戸外に出る機会は違うが、暖くなれば、ドライブ・買い物・花見・散歩等声かけしでかけられる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出、外食は時折行っているが、職員主体で行き先を決めており、また家族との外出などはあまり出来ない。	○	入居者の希望を取り入れての外出や、時には、家族と一緒に外食やドライブを楽しむことができるよう声かけ・支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えはあるが、自分でかけることはできない。話をすることはできるが、訴え時、時間帯頻度により家族の都合も考慮し本人の納得いくよう対応している。事務所に公衆電話も設置。手紙は、家族等からハガキ等届くが、ほとんどの方が自分の名前くらいで書くことが出来ない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	飾り物や入居者の写真など展示し、気軽に訪問出来る様工夫している。面会時は、それぞれの居室にてお茶やお菓子をだしゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを常に心掛けているが、具体的な行為についての理解については、まだ不十分などところがある。	○	身体拘束についてもっと学び、今までのケアに拘束がなかったか見直したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者への目配り、気配りを行っている。利用者が外出しそうな様子を確認したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていく等している。玄関も日中は鍵をかけず自由に出入りできるようしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は談話室にて利用者と一緒に過しながら作業を行い、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、時間毎に訪室し様子を確認するとともに何事にもすぐに対応できるよう、居室が見渡せる談話室にて過すようしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪きり、ハサミ、裁縫道具等、入居者が望まれる物は使ってもらい、見守りを行っている。保管管理は、職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防訓練・研修会への参加等行い、また、ヒヤリハット等作成し、ミーティングにて改善策を検討し、実施している。誤薬防止のため、投薬時名前確認の徹底。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を行ったことはあるが、実際の訓練等定期的に行っていない。緊急時対応マニュアルの本を購入し、対処法を学ぶ機会をつくった。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと避難訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。また、隣接している病院との協力等合同訓練も行っている。	○	地域方への声かけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン、家族会、面会に来られた時等に説明し話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異変発見時には協力医院にて受診、対応している。気付きは、管理日誌に記入し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行い、毎回本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。投薬内容の説明書綴りを作成し、個人それぞれにまとめ、いつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供、野菜摂取を心がけ、水分をなるべく多く飲用される様声かけをしている。また、外への散歩やホール内を歩いたり、身体を動かすようにしている。毎朝ラジオ体操の実施。	○	排便が数日ない人は、個々の状態にあわせ、下剤にて調整している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、誘導を行い、それぞれに合わせた見守り、介助をおこなっている。理解できない人には、スポンジで拭き取ったり緑茶でうがい等している。義歯は消毒。舌ブラシの購入。		口腔ケアの研修会への参加も実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量を確認しており、献立は隣接医院の管理栄養士のメニューをもとにつくっている。個々の状態に合わせ、おかゆ・トロミ・ミキサー・刻み食にしたり、好き嫌いや量の調節を行っている。食事量はチェック表にて管理。	○	水分量は未記入
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接医院にすぐに受診し医師の指導をうけ、情報収集をおこない、全職員で学習し対応している。また、入居者、職員共にインフルエンザの予防接種をうけている。天気の良い日には歯ブラシ等外に出して日光消毒をしている。ウェルパスでの消毒・プラスチックグローブの使用。		感染症予防の研修会へ参加、ミーティングにて発表し改善項目について対応。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使う分を注文し、足りないものを買って足すようにしている。食器や調理用具は乾燥にかけ、まな板は、肉・魚と野菜に使い分けており、天気のよい日には、外に干したり漂白をし、清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じてプランターや植木の間、花を植えている。玄関先にベンチを置いている。玄関には、入居者一人ひとりの顔写真を飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、一年間を通じて行事に合わせて壁等に飾り付けをしたり、置物を置いている。また、食堂とホールが一体になっているため、食器を洗う音、食事の支度の音・匂い等生活感を感じる事が出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前や廊下などにソファや椅子など配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや時計、小物等をなるべく持ってきていただき配置。入居者の趣味・趣向に合った物品や飾りつけを行ったり、写真や手紙を掲示する。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除、オムツ交換、排泄時等には、窓を開け、換気をしている。また、においがひどい時は、消臭剤を利用している。常に談話室・食堂スペースにおいては、24時間換気を行っている。温度調節は、個人の状況に応じそれぞれの居室のエアコンにて調整している。	○	冬は寒がりな方が多いため、なかなか窓を開けて換気が出来ていない、一日のうち、何回かは時間を決めて換気を行っていききたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており車椅子や歩行器などが通りやすいようスペースを広くとってある。また、利用者の状態に合わせて車椅子、歩行器等の福祉用具を見直しを行っている。手すりの設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室、トイレ等すぐわかるように表示したり、補助具などにも本人の状態に合わせ、わかりやすいように目印をつけたり、自立へつながるよう、職員間で話し合い環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やプランターに季節に合わせて野菜や花等をスタッフと入居者一緒に植えている。また、玄関先にベンチを置いて、涼んだり、日向ぼっこができようになっている。庭先などで季節により、バーベキューや焼き芋等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るくて家庭的な雰囲気がある。カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気で落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入所者の状態を把握することができ、すぐに対応出来るようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なリハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおやの
(ユニット名)	みどり
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市大矢野町上1520-8
記入者名 (管理者)	松永 香 (森 智子)
記入日	平成 21年 3月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念の一つである「安心して生活できる環境を提供します」という文言の環境をホーム内外、地域の中と大きな意味で位置づけている。</p>	<p>○</p> <p>全員が再度確認し、理念の認識をし努力していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員の見える位置に理念を掲げ、実践できるように努力している。ホール・玄関・事務所等</p>	<p>○</p> <p>スタッフ中心のケアになってきている部分もあり、実践にかされるよう再確認していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>毎月ホーム便りを地域・家族に配布し、ホームの事を知っていただけるよう努めているが、理念について掲載していない。</p>	<p>○</p> <p>今後、運営会議やボランティア等の機会あるごとに皆さんに紹介し、また、新年度等節目には、ホーム便り等で紹介し、皆さんに理解していただけるよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方や前の通りを歩いている方には、挨拶を心がけ、利用者や外出した際、知り合いと会った際等、挨拶や遊びに来てもらうよう声かけをしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭りや行事等に入居者と共に出来るだけ参加する様心がけ、また、婦人会等のボランティアや高校生のインターシップ、小学生、保育園児の訪問等を通じ交流につとめる。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状態をみながら、地域の行事への参加、外出の機会を増やし、様々な年代の方々との交流を心掛けていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者への支援のみで、地域への支援、かかわり等としては現在取り組めていないが、スタッフ・入居者の家族の地域、知人等相談、問い合わせについては対応している。	○	現在のグループホームの位置づけをスタッフ全員で再確認し、利用者の支援をもとにどのように地域とかかわり、役にたてるか考え取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフそれぞれで自己評価を実施することにより自分達が気付かなかった事、出来ていなかった事を再確認し、見直す機会になっており、ケアにつなげるようにしている。ミーティングにて意義について説明し理解をはかっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで実際取り組んでいる事等毎回報告し、外部評価後の運営会議では、評価結果を報告、それぞれの立場で意見を述べてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月ホーム便りを介護保険課の窓口を持参し、ホームでの取り組みや入居者の生活・様子等を知ってもらうよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特別学ぶ機会はないが、一方のユニットに現在成年後見制度を利用されている方が入居しておられ、入居時、職員に説明し対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学ぶ機会はつくれていないが、虐待に関しては絶対のないよう職員同士目を配っている。	○	講演会、研修等、機会があれば参加し、自分達がおこなっているケアに虐待につながるような行為がないか見直していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申込み、また、他事業所の学習会、研修会等機会があればスタッフへ声かけし、交代で必ず参加できるようにしている。また、全体ミーティングにて研修報告をしてもらっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、スタッフ同士の交流はあまりできていない。今年度は天草ブロックの新人研修や他施設での勉強会にもスタッフ参加。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回、連携先の病院と合同で忘年会等を行い、お互い親睦を深め、気分転換を図っている。また、ホーム独自でも食事会を行ったり、3連休等取得できる環境を整えている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日必ず顔を出し、入居者、スタッフへ声かけを行っている。職員の資格取得に向けた申し出があれば、対応出来る職員配置、勤務体制を整えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に必ず本人と面談し、心身の状態・状況を確認し、本人の意見・要望等よく聴くようにしている。また、信頼関係がつかれるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族と時間をかけよく話し合い、これまでの経緯やサービスの利用状況アセスメント等詳しく情報収集に努め、困難な事、不安な事を傾聴する。また、こちらのサービス利用状況を詳しく説明している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の相談をしっかり受けとめ状況を確認し、受付を行ったうえで現段階で何ができ、どのようなサービスがあるのか説明し、他施設の申し込みやサービスの利用をすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、可能であれば本人にもホームを見学してもらい、入居者やスタッフとの共通部分を見つけ出し、顔なじみになれるようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にテレビを観たり、歌を歌ったり、また寂しそうにされているときは話をきいたり、会話したりして。そして、できる作業は一緒に手伝ってもらい自信をもっていただくようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を設立し、いろいろな行事に参加を呼びかけ、家族とスタッフとの交流をはかり、話し合いの場を作り、共に助け合いながら支えていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、近況報告やホーム便りを発行し、本人の日常の様子等具体的に伝えたり、面会時に一緒に話をしたりしている。入居者一人ずつに担当者を決めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた場所や知っている場所に、ドライブや買い物に誘っている。	○	面会や知人の方との触れ合いができるように家族に働きかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、場所・席を考慮し気持ちよく過ごしていただけるようにしている。自室で過される方がおられるため、行事の時等、その都度声かけをおこなっている。	○	利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には特に声かけを心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ボランティア等の参加でかかわりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、その人に合った対応に心掛けている。意思疎通の困難な方には、言葉や表情等から推測したり、その人の立場になって考え、対応するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、経過等随時全スタッフが、確認できるようしてある。また、入居者とのかかわりの中で気付いた事、知り得た情報等、小さな事柄も、連絡帳に記入し、情報を共有するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状態を把握しながら努めている。また、毎朝、バイタルチェックを行い確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時や変化時、必要に応じてカンファレンスを行い、家族の面会時スタッフと話し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各担当が定期的・変化時にモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々の記録・管理日誌と別に申し送りノートを記入し、全員が把握できるよう実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて支援の方法を考え、実践している。必要時には、家族にも協力をしてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のスーパーの利用は、日常的に出来ている。ボランティア(家族、婦人会、小学生、保育園など)は頻回にきていただいている。隣接しているデイケアの催しにも参加している。中・高生の職場体験もうけいれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスは、本人が希望される時に、翌週の月曜日にあわせてもらい実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域で支える意味での地域包括支援センターとの協働は出来ていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しているので、状態変化に応じて受診している。かかりつけ医と常に連絡を取り合い緊急時の対応がすぐできるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	オムツ交換の際には、居室ドアを必ず閉めるようにし、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったり、利用者の意志確認に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間は決めず、一人ひとりのペースを大切に、できるだけ個別性のある支援を行っている。利用者の生活パターンにあわせて睡眠、食事等おこなっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2・3ヶ月おきに美容室の方にカットにきていただいているが、家族が連れて行かれるところもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは一緒に行くことは無理だが、一緒に食事をとり、食べられないメニューの時は代替を用意したり、刻み・ミキサー等食べやすいようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を考慮し、本人の様子や時間をみながら提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをチェック表で確認し、トイレの声かけや誘導を行っている。オムツの方もチェック表を確認しながら時間毎に交換を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの病状、心臓への負担等も考慮し、おおまかに予定は組んでいるが、各人の体調や希望にあわせて声かけ、誘導している。菖蒲湯、ゆず湯の実施。		温度差を感じないよう暖房をいれている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し休息をとってもらっている。夜は談話室にて眠くなるまでテレビを観たり、おしゃべりしたりして過され、自分の生活リズムで休まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人に合わせ、お願いできそうなことは手伝ってもらおうよう声かけをしているが、入居者の心身の状態等により、居室で休まれる方が多い。	○	子供の頃の歌や遊びを通し思い出を引き出していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が理解できていないが、自分で財布を持って管理している方もおられ、一緒に買物に出かけられる方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日や体調に合わせて、ドライブや近所への散歩、買物等に声かけし、出かけるようにしている。	○	散歩や買物等行く場所が決まっているので、変化をつけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出、外食は時折行っているが、職員主体で行き先をきめており、また、家族との外出等はあまりできていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次ぎ、居室にてゆっくり話をさせていただいたり、職員が間に入り支援したりしているが、本人からの訴えは特にない。事務所に公衆電話も設置している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るい声、笑顔での挨拶に心がけ、面会時は、それぞれの居室にてゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に寄り添い、身体拘束以外の対処法を検討している。	○	身体拘束に対しての勉強会等も行い確認していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者への目配り、気配りを行っている。利用者が外出しそうな様子を確認したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていく等しているが、入居者の徘徊の状態・全体の状況により判断している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は談話室にて利用者と一緒に過しながら作業を行い、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、時間毎に訪室し様子を確認するとともに何事にもすぐに対応できるよう、居室が見渡せる談話室にて過すようしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪きり、ハサミ、裁縫道具等、保管管理は、職員が行っているが、個人の能力に応じ自分で管理している方もおられる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防訓練・研修会への参加等行い、また、ヒヤリハット等作成し、ミーティングにて改善策を検討し、実施している。誤薬防止のため、投薬時名前確認の徹底。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング等で応急手当の勉強会を行ったことはあるが、訓練は定期的に行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと避難訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。また、隣接している病院との協力等合同訓練も行っている。	○	地域方への声かけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン、家族会、面会に来られた時等に説明し話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異変発見時には協力医院にて受診、対応している。気付きは、管理日誌に記入し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行い、毎回本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。投薬内容の説明書綴りを作成し、個人それぞれにまとめ、いつでも確認できるようしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の牛乳飲用、野菜摂取を心がけ、水分をなるべく多く飲用される様声かけをしている。また、外への散歩やホール内を歩く等、身体を動かすようにしている。	○	排便が数日ない人は、個々の状態にあわせ、下剤にて調整している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、誘導を行い、それぞれに合わせた見守り、介助をおこなっている。理解できない人には、スポンジで拭き取ったり緑茶でうがい等している。1週間に1回、義歯は消毒している。		口腔ケアの研修会への参加も実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量を確認しており、献立は隣接医院の管理栄養士のメニューをもとにつくっている。個々の状態に合わせ、おかゆ・トロミ・ミキサー・刻み食にしたり、好き嫌いや量の調節を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接医院にすぐに受診し医師の指導をうけ、情報収集をおこない、全職員で学習し対応している。また、入居者、職員共にインフルエンザの予防接種をうけている。天気の良い日には歯ブラシ等外に出して日光消毒をしている。ウェルパスでの消毒・プラスチックグローブの使用。		感染症予防の研修会へ参加、ミーティングにて発表し改善項目について対応。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使う分を注文し、足りないものを買って足すようにしている。食器や調理用具は乾燥にかけ、天気のよい日には、外に干したり漂白をし、清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じてプランターや植木の間、花を植えている。玄関先にベンチを置いている。また、玄関には、入居者の家族の方が撮影された写真を毎月展示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、一年間を通じて行事に合わせ壁等に飾り付けをしたり、置物を置いている。また、食堂とホールが一体になっているため、食器を洗う音、食事の支度の音・匂い等生活感を感じる事が出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前や廊下などにソファや椅子など配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや小物等をなるべく持ってきていただき、配置は、入居者の使用しやすい所に置くようにしている。また、家族の写真や手紙、花等を飾り、ポスターや小物等季節ごとに取り替えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除、オムツ交換、排泄時等には、窓を開け、換気をしている。また、においがひどい時は、消臭剤を利用している。常に談話室・食堂スペースにおいては、24時間換気を行っている。温度調節は、個人の状況に応じそれぞれの居室のエアコンにて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており車椅子や歩行器などが通りやすいようスペースを広くとっている。また、利用者の状態に合わせて車椅子、歩行器等の福祉用具を見直しを行っている。手すりの設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室、トイレ等すぐわかるように表示したり、自立へつながらよう、職員間で話し合い環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やプランターに季節に合わせて野菜や花等をスタッフと入居者一緒に植えている。また、玄関先にベンチを置いて、涼んだり、日向ぼっこができようになっている。庭先などで季節により、バーベキューや焼き芋等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るくて家庭的な雰囲気がある。カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気で落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入所者の状態を把握することができ、すぐに対応出来るようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なリハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。